

第 6 章

学 習 指 導

第1節 諸田 裕子

第2節 樋田 大二郎

これまでの章では、教育課程編成（授業時数や学校行事など）の多様化や「総合的な学習の時間」、個に応じた指導などの新しい取り組みの動向について検討してきた。そこで、本章では、教科の指導を中心とする日々の実践のなかで、教師がどのようなことを心がけ、どのような学習方法を取り入れているかを検討する。特に、新学習指導要領を受けて教師が何を重視するようになったのか、それに基づいて行われる授業展開のしかたや児童・生徒に取り組ませる学習方法にどのような特徴がみられるのかを確認する。

第1節

授業の進め方や授業内容

教師は、新学習指導要領を受けて「児童・生徒の発言や発表の時間」「机間指導や児童・生徒に個別に対応する時間」「練習や演習の時間」などを多くするように心がけている。授業の進め方では、体験、自己探究、表現活動を重視する“新学力観”を考慮した方法が多く取り入れられている。

1) 多くするように心がけている時間の 使い方・進め方

新学習指導要領の全面实施は、教室の授業風景にどのような変化をもたらすのだろうか。授業の時間の使い方や進め方について14項目(小・中学校教師に同一項目を設定)を設定し、「新学習指導要領を受けて、特に多くするよう心がけるようにした時間の使い方や授業の進め方」を3つまで選んでもらった(図6-1、図6-2)。

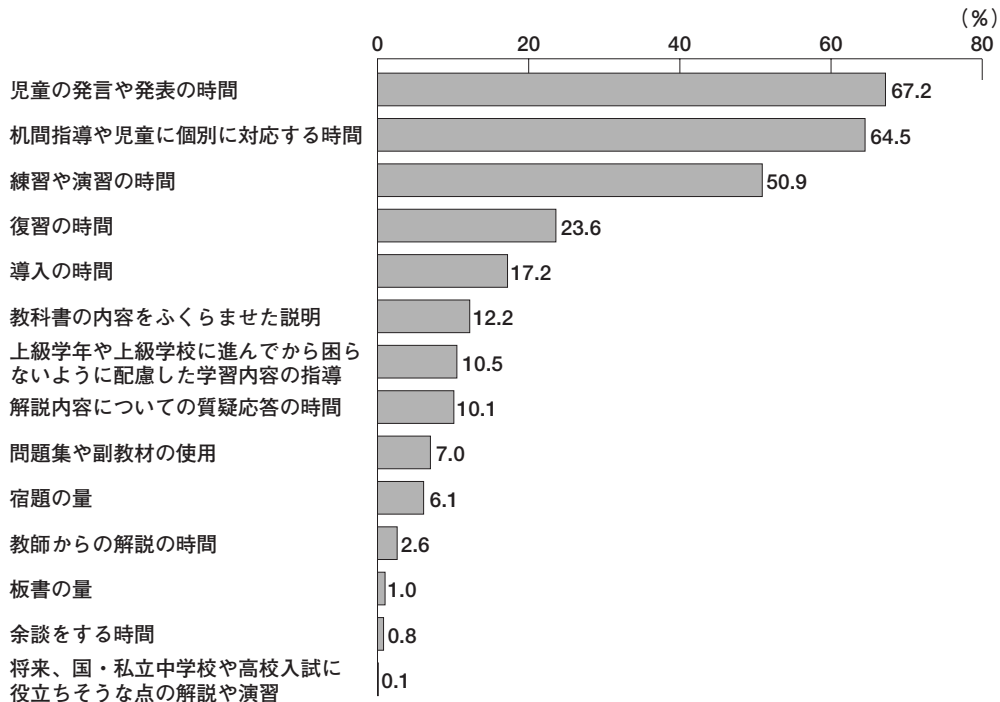
小・中学校教師ともに、割合の高い項目は共通している。「児童・生徒の発言や発表の時間」(小学校教師67.2%、中学校教師55.3%)、「机間指導や児童・生徒に個別に対応する時間」(同64.5%、51.6%)、「練習や演習の時間」(同50.9%、43.4%)などが上位に並ぶ。「児童・生徒の発言や発表の時間」を多くするように心がける教師が半数以上を占める一方で、「教師からの解説の時間」は、小学校教師2.6%、中学校教師7.0%にすぎない。「解説内容についての質疑応答の時間」を多くするよう心がけているという教師は、小・中学校を通じて1割程度となっている。もちろん、

「教師からの解説の時間」や「解説内容についての質疑応答の時間」は、多くするように心がけなくても教師の日常的な授業実践において当たり前のように行われているため、このように低い数値となっているという可能性はある。

しかしながら、「教師からの解説の時間」以上に「児童・生徒の発言や発表の時間」を重視しようとしている点や、「机間指導や児童・生徒に個別に対応する時間」を意識的に取ろうと心がけている点は、前回の改訂(1989年)以後のいわゆる“新学力観”の延長線上にある今回の改訂の趣旨が学校現場に浸透している結果(日常化していないため、いまだ「心がけ」なければならないのかもしれないが)といえるだろう。

なお、学校段階間で比較してみると、「教科書の内容をふくらませた説明」が、小学校教師12.2%に対して中学校教師23.8%となっている。中学校教師の4人に1人が、今回の改訂により削減された教育内容を自分で補いつつ授業を進めていることがわかる。

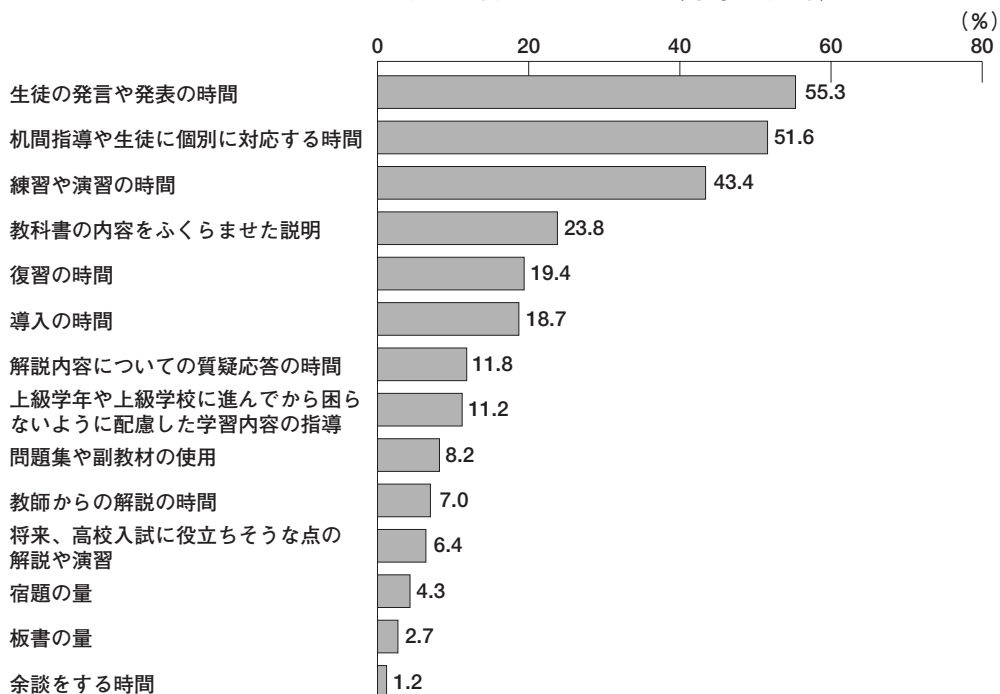
■図6-1 授業の時間の使い方・進め方(小学校教師)



注1) サンプルは小学校教師3619人。

注2) 14項目中、3つまで選択。

■図6-2 授業の時間の使い方・進め方(中学校教師)



注1) サンプルは中学校教師3388人。

注2) 14項目中、3つまで選択。

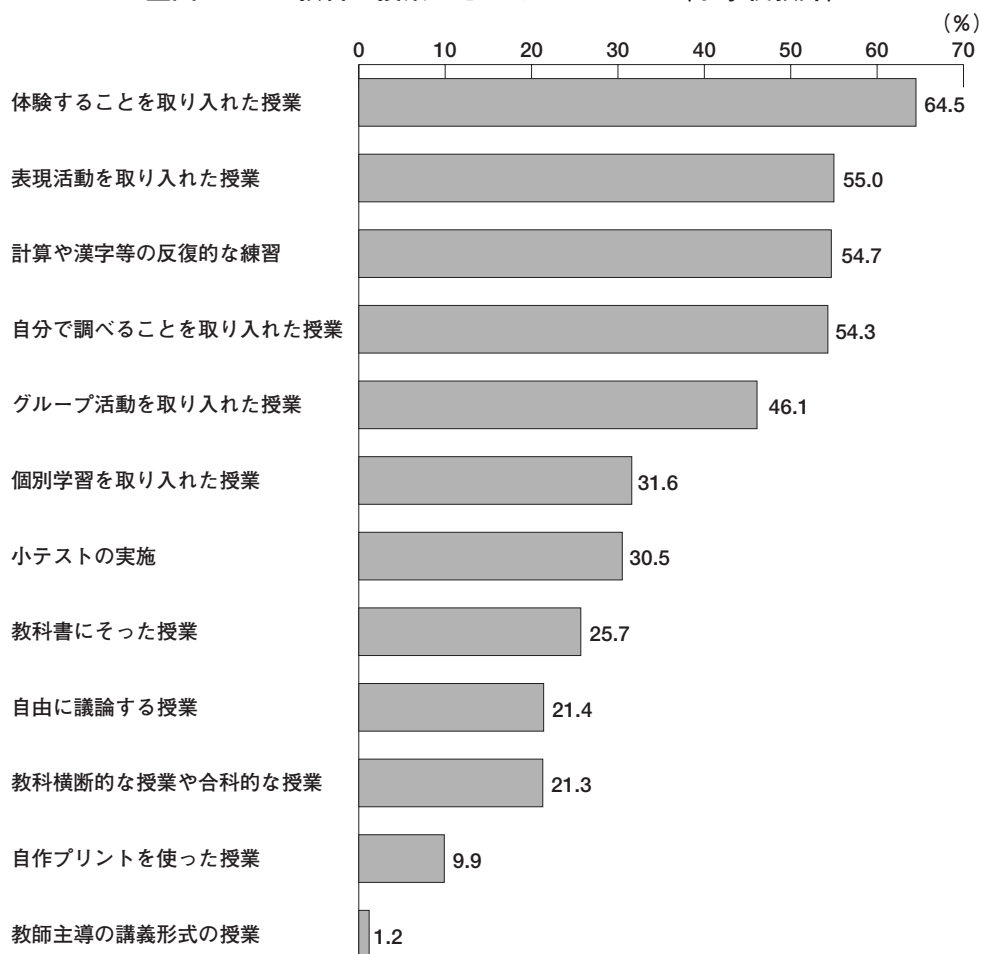
2) 心がけている授業方法

次に、心がけている授業方法について12項目を設定し、それぞれについて「多くするように特に心がけている」「まあ心がけている」「あまり心がけていない」の3段階で回答してもらった。

まず、小学校教師についてみてみよう(図6-3、経年比較についてはp.19表1-1を参照)。今回の調査では、半数以上の教師が

「体験することを取り入れた授業」64.5%、「表現活動を取り入れた授業」55.0%、「計算や漢字等の反復的な練習」54.7%、「自分で調べることを取り入れた授業」54.3%を「多くするように特に心がけている」と回答している。“新学力観”的な授業方法(体験重視、自分で調べる、表現活動)にも取り組むと同時に、近年問題になっている「学力低下」対策にも取り組まなければならない現状を反映

■図6-3 教科の授業で心がけていること(小学校教師)



注1) サンプルは小学校教師3619人。

注2) 数値は「多くするように特に心がけている」割合。

しているのかもしれない。

では、中学校教師は教科の授業でどのような方法を心がけているのだろうか。「多くするように特に心がけている」と回答した割合を全体および担当教科別に示した(表6-1)。全体的には、「表現活動を取り入れた授業」42.4%、「自作プリントを使った授業」32.3%、「グループ活動を取り入れた授業」31.9%となっている。しかし、教科によって心がけている授業方法は大きく異なってい

る。たとえば、「社会」では「自分で調べることを取り入れた授業」が51.5%を示し、また、「数学」では「計算や漢字等の反復的な練習」48.5%、「小テストの実施」41.3%、「個別学習を取り入れた授業」32.8%の割合が高くなっている。「理科」では「体験することを取り入れた授業」63.7%が最も多く、「外国語」では「表現活動を取り入れた授業」が70.6%、次いで「自作プリントを使った授業」が42.1%となっている。

■表6-1 教科の授業で心がけていること(中学校教師/担当教科別)

(%)

	全体 (3388人)	国語 (681人)	社会 (433人)	数学 (738人)	理科 (397人)	外国語 (642人)
表現活動を取り入れた授業	42.4	55.7	26.6	13.3	22.9	70.6
自作プリントを使った授業	32.3	29.1	36.5	25.7	29.2	42.1
グループ活動を取り入れた授業	31.9	33.5	24.0	10.8	43.1	36.3
体験することを取り入れた授業	29.0	14.5	14.5	11.4	63.7	22.9
小テストの実施	28.6	32.6	23.6	41.3	21.2	34.7
自分で調べることを取り入れた授業	28.1	39.1	51.5	10.4	33.2	14.2
計算や漢字等の反復的な練習	25.2	34.4	7.6	48.5	8.3	23.4
個別学習を取り入れた授業	21.8	22.0	12.2	32.8	11.3	17.4
教科書にそった授業	20.1	20.9	23.1	26.2	20.7	20.7
自由に議論する授業	12.3	17.8	14.1	9.5	14.6	7.0
教科横断的な授業や合科的な授業	5.5	6.5	5.3	2.6	7.6	4.8
教師主導の講義形式の授業	4.7	3.5	7.4	6.2	6.3	2.2

注1) 数値は「多くするように特に心がけている」割合。

注2) 網掛けは、30%以上の項目を示す。

第2節

授業で取り入れている学習方法

小学校では多様な学習方法が取り入れられている。教科ごとの特徴としては、小・中学校ともに「社会」で「児童・生徒に課題やテーマを与えて行う調べ学習」や「児童・生徒にテーマを選ばせて行う学習（テーマ学習）」「コンピュータを使った学習」「インターネットを利用した学習」などが行われる割合が高い。中学校では全教科で8割以上の教師が「自作プリントを用いた授業」を行っているのが特徴である。

今日の学校では、伝統的なチョーク・アンド・トークによる学習方法（先生が白墨を握って黒板の前に立ち教科書を解説し、児童・生徒は言われたことを一斉にノートにとるという学習方法）だけではなく、児童・生徒が参加しながら授業を進めていく様々な学習方法が用いられるようになってきている。本節では、そうした新しいタイプの学習方法の実施状況を明らかにする。

1) 小学校では多様な新しいタイプの学習方法が一般化

表6-2で、小学校で実施している新しい学習方法からみると、「社会」で新しい方法を用いる割合が高い。「社会」の授業では、およそ4分の3の教師が「児童に課題やテーマを与えて行う調べ学習」(74.9%)を実施している。その他、およそ6割前後の小学校教師が「学校外での現場・フィールドでの体験的方法による学習」(64.2%)、「インターネットを利用した学習」(63.2%)、「学校外の施設・センターなどを利用した学習」(59.8%)、「児童にテーマを選ばせて行う学習（テーマ学習）」(59.4%)などの体験的学習やテーマ学習を「社会」の授業のなかで実施している。これらの授業方法は、もはや一般化していると言っても過言ではない。また、「コンピュータを使った学習」52.6%、「学校内での体験的方法による学習（体験学習）」47.8%、「社会人講師・地域の人材による授

業」46.2%なども高い割合で実施している。しかし、伝統的かつ安易な方法である「市販テスト（業者テスト）の利用」68.9%も比較的高い割合で用いられている。

その他の教科では、「国語」でおよそ6割の教師が「ディベート・討論を取り入れた学習」(60.3%)を実施し、「理科」で6割強の教師が「学校内での体験的方法による学習（体験学習）」(63.8%)を行い、「算数」で8割の教師が「個別学習」(80.0%)を行い、さらに「算数」ではおよそ3分の2の教師が「自作プリントを用いての学習」(65.3%)を行っている。なお、「算数」は実施率2割に満たない授業方法が7つもあり、4つの教科のなかでは新しい学習方法が最も取り入れられていない教科でもある。

2) 中学校では、自作プリント、個別学習、調べ学習がベスト・スリー

図6-4で、中学校教師がどのような学習方法を実施しているかをみると、生徒の状況と自分の教え方に合わせた授業方法である「自作プリントを用いての学習」85.8%が非常に多い。また、中学校の場合、「個別学習」65.8%も高い実施率であり、学力の多様化への対応がなされている様子がわかる。さらに、調べ学習も一般化しており、全教科平均でおよそ6割が「生徒に課題やテーマを与えて行う調べ学習」(59.5%)を実施している。その他、「生徒にテーマを選ばせて行う学習

(テーマ学習)」35.1%、「学校内での体験的方法による学習(体験学習)」32.8%といったようにテーマ学習、体験学習も比較的实施率が高い。ただし第1章で検討したように、その割合は97年調査よりも減少している(p.21 図1-2)。

なお、「コンピュータを使った学習」38.5%と「インターネットを利用した学習」35.5%の情報機器を用いた2つの学習方法は、それぞれ3割強と4割弱の教師が導入済みである。

■表6-2 授業で取り入れている学習方法(小学校教師/教科別)

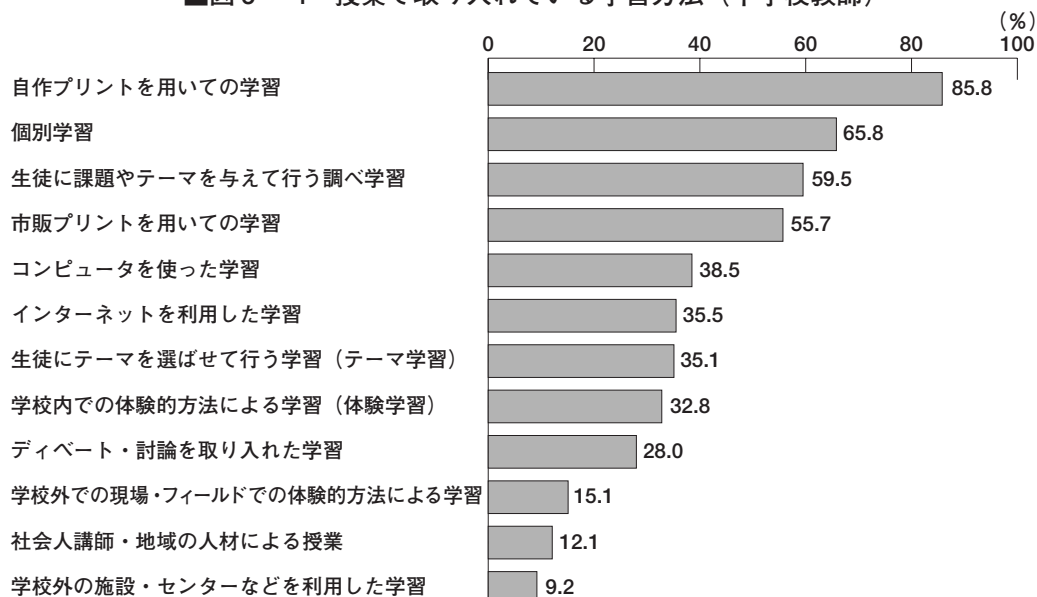
	(%)			
	国語	社会	算数	理科
児童にテーマを選ばせて行う学習(テーマ学習)	33.0	59.4	3.8	26.7
児童に課題やテーマを与えて行う調べ学習	43.8	74.9	17.5	45.4
学校内での体験的方法による学習(体験学習)	12.7	47.8	27.6	63.8
学校外での現場・フィールドでの体験的方法による学習	6.7	64.2	3.8	37.9
学校外の施設・センターなどを利用した学習	4.3	59.8	0.7	15.9
コンピュータを使った学習	32.6	52.6	26.7	35.2
インターネットを利用した学習	14.1	63.2	2.9	33.7
ディベート・討論を取り入れた学習	60.3	21.5	6.0	5.4
個別学習	39.3	15.7	80.0	11.7
社会人講師・地域の人材による授業	6.7	46.2	0.9	6.9
自作プリントを用いての学習	55.5	39.5	65.3	26.7
市販プリントを用いての学習	56.3	21.7	69.1	23.6
市販テスト(業者テスト)の利用	86.9	68.9	85.6	77.1

注1) サンプルは、「国語」「社会」「算数」「理科」の教科をすべて担当している小学校教師2026人。

注2) 複数回答。

注3) 網掛けは50%以上の項目、下線は20%以下の項目を示す。

■図6-4 授業で取り入れている学習方法(中学校教師)



注1) サンプルは中学校教師3388人。

注2) 数値は「はい」「いいえ」のうち、「はい」と回答した割合。

3) 教科による違い

表6-3で、中学校教師について、各学習方法の実施率を教科別にみてみよう。

まず、「自作プリントを用いての学習」の実施率が非常に高く、全教科で8割以上であるが、特に「外国語」では92.2%、「国語」でも88.7%と9割前後に達している。また、「個別学習」の実施率も高く、全教科で5割を超えて実施されているが、「数学」が75.2%、「国語」が71.4%、「外国語」が70.6%と特に高くなっている。

これに対して、「生徒に課題やテーマを与えて行う調べ学習」は教科ごとにばらつきが大きく、「社会」が85.9%、「国語」が84.4%と8割を超えているのに対して、「数学」では3割弱の27.4%、「外国語」も4割強の43.5%にとどまっている。

「理科」では実験・観察などが多いので「学校内での体験的方法による学習(体験学習)」が66.2%と高い割合になっている。

「コンピュータを使った学習」は「社会」54.7%、「理科」45.8%、「その他」42.2%の順に多く、「数学」は38.5%の4割弱にとど

まっている。コンピュータを学習するのではなく、各教科の授業においてコンピュータで学習する、つまり学習の道具としてコンピュータを利用する傾向が定着してきている。同じような傾向が「インターネットを利用した学習」にもあらわれている。

「生徒にテーマを選ばせて行う学習(テーマ学習)」は、「社会」が59.1%、「国語」が55.2%と、5割を超える実施率になっている。少ない割合ではあるが、「数学」でも1割弱の8.8%がテーマ学習を実施している。座学のイメージの強い「数学」でテーマ学習を取り入れる割合がゼロでないことに注目したい。

「ディベート・討論を取り入れた学習」は、「国語」で70.8%とおよそ7割もの教師が実施しているほか、ここでも再びわずかではあるが「数学」で8.7%の教師がディベート・討論を実施している。

最後に、「社会人講師・地域の人材による授業」は「その他」の教科で25.9%、「社会」で19.2%と、他の教科よりも多くなっている。

■表6-3 授業で取り入れている学習方法(中学校教師/担当教科別)

(%)

	国語 (681人)	社会 (433人)	数学 (738人)	理科 (397人)	外国語 (642人)	その他 (491人)
自作プリントを用いての学習	88.7	85.0	84.4	81.6	92.2	80.0
個別学習	71.4	52.7	75.2	50.9	70.6	61.7
生徒に課題やテーマを与えて行う調べ学習	84.4	85.9	27.4	68.0	43.5	64.2
市販プリントを用いての学習	57.7	52.4	60.7	63.5	67.0	27.1
コンピュータを使った学習	32.7	54.7	38.5	45.8	26.2	42.2
インターネットを利用した学習	38.8	61.0	18.7	42.6	27.7	38.3
生徒にテーマを選ばせて行う学習(テーマ学習)	55.2	59.1	8.8	35.8	17.9	47.5
学校内での体験的方法による学習(体験学習)	22.2	27.5	15.2	66.2	26.2	60.5
ディベート・討論を取り入れた学習	70.8	37.4	8.7	14.4	18.1	13.6
学校外での現場・フィールドでの体験的方法による学習	10.0	23.1	5.1	31.5	8.7	25.7
社会人講師・地域の人材による授業	11.3	19.2	3.4	8.1	10.1	25.9
学校外の施設・センターなどを利用した学習	9.7	15.7	3.4	9.8	5.6	16.1

注1) 担当教科に「無回答」であった6人は省略した。

注2) 数値は「はい」「いいえ」のうち、「はい」と回答した割合。

注3) 網掛けは50%以上の項目、下線は20%以下の項目を示す。